

## 孤愁

著者	りんかん
雑誌名	龍南會雜誌
巻	1 5 7
ページ	1 0 4 - 1 0 4
発行年	1915-03-30
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2298/6445">http://hdl.handle.net/2298/6445</a>

孤

愁

らんかん

夕陽うけてみなみの空に片照れるあはれさびしき雲のうごけり  
安からぬ人ごともちて山住むをさてもかなしや人に告げ得ず  
いつしかにねぎそめにしをゆゑ知らず海べ育ちて山に入るかも  
いと廣く立つ山脈はあかあかと夕陽にはわて村をいだけり  
夕ざれば野火のけむりのをちこちに見ね初めゆきて村は寂しも  
忙がしき巷のがれて山來ればゆるがぬ山ぞうれしかりつる

紫金の星と穉き歌々

——路傍詩社(三部一年)——

□

古賀 薄明

ペンペン草摘めばほろりと朝の露わびしや君をたもひて泣ける  
春雨の霽間をいそぐ順禮の瞳にうつる越智の山々  
しらじらと朝の狭霧の中に浮く果物畑の梨の木の花